

# 第22回コブレンツ 国際ギターフェスティバル&アカデミー

レポート・写真：テレーズ・ワシリー・サバ Thérèse Wassily Saba / 翻訳：関塚亮司 Ryoji Sekizuka

ドイツ・ライン河流域の風光明媚な観光都市コブレンツで毎年開催される「コブレンツ国際ギターフェスティバル&アカデミー」。今年で、第22回を迎えたこのフェスティバルの様を、「ロンドン便り」の連載でお馴染み、コンクールの審査員も務めたワシリー・サバさんのレポートにより紹介する。



コンクール審査員

(後列左より) 佐々木忠、サブリナ・ウラスカツク、ジュディカエル・ペロワ、アルフレット・エックハルト、ルチオ・マタラッツォ、マックス・オブ・デン・カンブ  
(前列左より) トーマス・オッフアーマン、ゲルハルト・ライヒェンバッハ、コスタス・コチョリス、フーバート・ケッペル、ワシリー・サバ  
© Thérèse Wassily Saba

コブレンツ国際ギターフェスティバル&アカデミー取材して感じるのは、フェスティバルが年々良くなっていることだ。これまで12年間参加してきた私が毎年抱く、期待感を容易に想像して頂けると思う。幸いなことに、今年も私の期待は裏切られなかった。

今年で第22回を迎える「コブレンツ国際ギターフェスティバル&アカデミー」は、ドイツのコブレンツで、6月1日～9日まで開催された。今回の特徴は、招聘された多くの一流アーティストが例年になく長らく当地に留まったことである。つまり、世界のトップレベルの演奏家達が、コンサートで素晴らしい演奏を披露しただけ

でなく、我々と夕食を共にし、有意義な会話を交わすに足る十分な時間が取れた訳である。

## ◆ライフ・アチーブメント賞授与式

彼らがフェスティバルに長く留まった理由の一つは、コブレンツ国際アカデミーのライフ・アチーブメント賞の授与式が、今年行なわれたからである。受賞したのはダダリオ社の副社長ジョン・ダダリオ Jr. とサバレス社の社長ベルナル・マイヨである。両社とも創業したのは先代であるが、ダダリオ社の場合は一世代早く既に3代目に引き継がれている。両社とも、将来次の世代に継

